

関西・大阪21世紀協会が2021年度より実施している「学校アートプログラム」。本事業は小学校にアーティストを派遣して行う体験授業で、子どもたちがアーティストと触れ合うことで創造性を育み、心豊かな成長を促すとともに、関西・大阪の文化芸術の活性化を図ることを

目的としています。2年目である2022年度においては、昨年度実施プログラムから内容を一新して実施するとともに、既存の枠組みを活用した新たな取り組みを展開していきます。



泉南市立新家小学校5年生

廃材を使って守り神を作ろう

● 講師：石田真也

事前に集めた廃材で各自が「自分の守り神の顔」を制作。それをつなぎ合わせてグループの守り神を作り、最後はクラス全体の守り神に仕上げ教室に展示しました。守り神をつなぎ合わせる人、装飾を考える人、クラスの神様の名前を考えて看板を作る人など、役割を分担して作業しました。



泉南市立東小学校5年生

南アフリカの音楽とアート体験

● 講師：ンコシ・アフリカ

ジェンベでオリジナル曲を作ったほか、南アフリカの少数民族ンデベレ族のアートを体験しました。3日間の最終日は、オリジナル曲やアート作品、自分たちで調べた南アフリカの生活や文化を全児童に向けて発表しました。



阪南市立朝日小学校3年生・岬町立深日小学校4年生

南アフリカの音楽体験

● 講師：ンコシ・アフリカ

アフリカの太鼓・ジェンベの基本的な奏法を教えてもらった後、朝日小学校はクラスごとに、深日小学校はグループごとに分かれ、自分たちで考えたオリジナル曲を制作。それを発表会で演奏し、出来栄を披露しました。



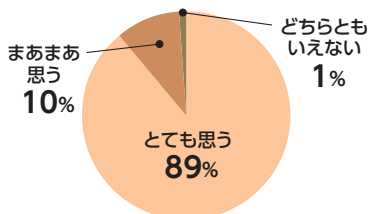
南アフリカとオンラインでつながりました

東小学校、朝日小学校、深日小学校の3校では、南アフリカ共和国の公認サファリガイドである太田ゆかさんとオンラインでつなぎ、現地の野生動物の様子や絶滅が危惧されるサイの保護についてお話を聞きました。

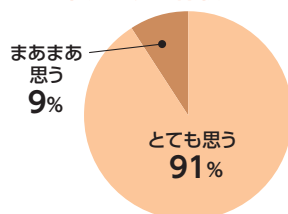


アンケート結果

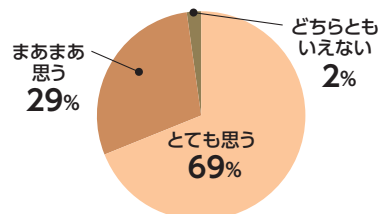
「またやってみようと思った」



「アーティストと一緒に活動できて、普段とは違う体験ができた」



「表現することが楽しかった」



アンケートより抜粋

参加児童の感想

「廃材を使って守り神を作ろう」

- みんなからいっぱい意見が出てきて、みんな考えが自由ですごいなと思いました。
- 廃材でアートを作るのは見たことも聞いたこともなくて、新鮮な気持ちになりました。

「南アフリカの音楽体験」

- ワークショップのおかげで世界、音楽、アートの幅がとて広がりました。
- 角をとるためにサイを殺すのはひどい。密猟の話や友だちや家族に教えようと思いました。

教員の感想

- 何でもそつなくこなす児童が「難しいからこそ面白い」と夢中になっていました。
- あまり表現することのない児童が、リズムに乗ってソロ演奏にも挑戦していました。
- いろいろな意見を聞き入れよう、取り入れようとしている姿が見られました。
- アーティストの児童への接し方に触れ、教員自身も新しい発見がありました。
- 自らが新しい芸術表現を知るきっかけになりました。

石田 真也さん

「見えない力」をテーマに、国内外の訪問地で集めた廃品や漂着物、不要となった物を素材として立体作品を制作。物が生まれてからなくなるまでのサイクルに介入することで、物の新たな可能性を追求する。



ンコシ・アフリカ

アフリカンパーカッションの演奏や絵画制作などを行う南アフリカ共和国出身のアーティスト・Joseph Nkosi（ジョセフ・ンコシ）さん（写真上）と、大阪府出身のマリンバ奏者・河辺知美さん（同下）によるアフリカン音楽のユニット。



学生スタッフの声

永田 日向生さん

大阪教育大学 教員養成課程 中等教育専攻
美術・書道コース（美術）

芸術に気づく最初の一步

「学校アートプログラム」を実際に見ることができたのは、本当に貴重な機会となりました。音楽や美術（図工）を通して世界の様々な文化に触れることは、芸術を教科として好きではない子でも、「あ、これも音楽なんだ」「これも美術なんだ」と気づくことができる、最初の一步になると思いました。また、来春（令和5年4月）から美術教員になる立場として、普段の授業だけではなく、アーティストの方々に学校へ来ていただくことや、子どもたちが学校の外で実際に見るといった重要性を強く感じました。それと同時に、子どもたちが楽器に触ったり作品を作ったりして楽しそうにしているところを目にして、アート普及のために学校でできることはまだまだあるのではないかと、希望を持つことができました。

中野 真希さん

大阪教育大学 大学院連合教職実践研究科
高度教職開発専攻

教師も児童と一緒に楽しく

朝日小学校と深日小学校で「アフリカの音楽体験」授業を見学しました。最初は太鼓を一人でたたくことに自信がなかった子も、授業の最後には自分なりのリズムをつかみ、楽しむことができていました。仲間と一緒に作品を作ることが、生き生きした学びにつながっていることがよく分かりました。新家小学校での「廃材を使った守り神作り」では、私自身、「ゴミから作品を作る」という経験はほとんどなく、海から流れ着く物をじっくり見て、新たな物に作り替える作業は、非常に印象的でした。子どもたちにとっても、新鮮な体験になったと思います。また、子どもたちと一緒に楽しみながら学びを深めようとする先生の姿を見て、私が目指す教師像にも結び付く部分を感じ、私自身も学びを深めることができました。

今年度の新たな取り組み

阪南市の海洋教育にプログラムを提供

学校アートプログラムでは、基本的な枠組みを活用して他の団体にショートプログラムを提供するなど、さらなる取り組みを拡大しています。今年度は、阪南市が展開している「豊かな地域資源を活用し地域が支えあう持続可能な協働・共創のまちづくり」を目指す海洋教育において、その枠組みを活用し、小学校3校にプログラムを提供しました。朝日小学校・桃の木台小学校においては、「石図鑑づくり」を、東鳥取小学校においては、「OHP（オーバーヘッド・プロジェクター）を使って風景を表現」をそれぞれ実施しました。



地元ご協力企業の声



東野 泰希さん

和泉チエン株式会社
経営企画Gr 直屬グループ

思いがけない気づきやエネルギーを得る

本プログラムを通じ、子どもたちの豊かな発想力、感性、そして笑顔に触れることができ、当社としても思いがけない気づきや前向きなエネルギーを受け取ることができました。普段の学校生活では関わりがない人たちとの出会いや経験は、将来記憶に明確には残らずとも、個々人の心のどこかで寄り続け、人格を形成する大事な要素になると信じております。未来ある人材の育成のために、今後とも微力ながらサポートできれば嬉しいです。